

小学部第5学年 自立活動学習指導案

日時	平成**年**月**日（*）10:45～11:30	場所	****教室
指導者	〇〇〇〇（T1）、〇〇〇〇（T2）、〇〇〇〇（T3）、〇〇〇〇（T4）		
題材名	みんなと身体を動かそう		
題材設定の理由	<p>本グループは男子*名、女子*名の計5名で構成されている。意思表示に関しては、指さしや「ちょうだい」のジェスチャー、視線と発声で関わりが深い教師に要求を伝えることができる児童から、快不快の表出を汲み取ることが難しい児童まで幅広い実態である。</p> <p>今年度、関わりが深い教師とのやりとりの中で「先生に伝わった」「先生と活動して楽しい」という経験を繰り返しながら、様々な人や場面へと意思表示に広がりをもたせていくことをグループ目標として学習を進めてきた。学習を進める過程で、児童が発声や動作で明確な要求や思いを教師に伝えたり、教師の指さしや簡単な言葉かけで指示を理解することができたりする場面が増えるなど、教師と児童の関わりに変化が見られるようになった。</p> <p>児童同士の関わりについては、友達を意識しながら関わった経験が乏しい実態であるため、友達に近寄っても一人遊びをしたり、友達の顔を触ったり引き寄せたり等の一方向的な関わりになってしまうことが多い。しかし、友達に近づいて顔を覗き込んだり、友達と教師が関わる様子を注視したり等、自分なりの方法で積極的に友達へ関心を向ける場面が増え、「友達と遊びたい」「友達と一緒に活動したい」という様子が多く見られるようになってきている。そこで、今後は、教師との関わりを充実させながらも、友達とやりとりをしたり、一緒に活動したりしながら楽しむ経験を積み重ねていくことが必要であると考えます。</p> <p>本題材では、関わり遊びと布ハンモックやキャスターボードを使った活動を展開していく。関わり遊びでは教師と児童、または児童同士が視線を合わせ、お互いの身体に触れ合いながら楽しむことができるように本グループの児童になじみのある「一本橋こちょこちょ」を設定した。布ハンモックは、児童の反応を確認しながら揺れのタイミングや大きさを調整することで教師とやりとりしながら活動することができ、キャスターボードは誰かに引いてもらわなければ動かないため、必然的に教師や友達を意識しながら活動することができる。また、児童が特に好む布ハンモックとキャスターボードを活動に取り入れることで、「交代してほしい」「まだ交代したくない」といった意思が明確に表出され、児童同士の関わりが増えることが期待される。</p> <p>指導に当たっては、児童の反応や行動をじっくり観察しながら授業者で声を掛け合い、児童の反応に合わせて活動内容を柔軟に変化させるようにする。また、児童同士がお互いの表情や様子が見えるように座席配置や姿勢を工夫したり、関わりながら活動したりできるような場面を設定する。友達に対する興味関心が芽生え始めた児童が友達と一緒に活動することの楽しさを経験すると同時に、本題材を通して児童同士が関わるための手がかりを見つけ、今後の支援や指導に活かせるようにしたいと考える。</p>		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 関わり遊びをする中で、教師や友達と視線を合わせたり触れ合ったりすることができる。 教師や友達と一緒に活動する経験を積み重ねながら、思いや要求を自分なりの方法で伝えることができる。 		

指導計画 (26 時間扱い)	第1次 みんなと身体を動かそう～自分でやってみよう～ いろいろな動きを経験しよう・・・・・・・・・・8時間 外で身体を動かそう・・・・・・・・・・6時間 第2次 みんなと身体を動かそう～選んでやってみよう～ ウォータークッションと布ハンモック・・・・2時間 いろいろなバランスボール・・・・・・・・・・2時間 キャスターボードとローリングカー・・・・2時間 いろいろな段ボール・・・・・・・・・・2時間 布ハンモックとキャスターボード・・・・2時間（本時は23・24時間目） お散歩車とキャスターボード・・・・・・・・2時間
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

[本時の指導]

1 全体目標

- 関わり遊びの中で教師と視線を合わせたり、友達と触れ合ったりすることができる。
- 教師や友達に表情や視線、動作等で自分の要求や思いを伝えたり、大人からの働きかけに対して応えたりすることができる。

2 児童の実態及び個別目標等

主な担当 児童 学年（性別）	児童の実態	個別目標	主な指導場面 評価方法
A 5年（*）	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に視線を合わせて話しかけられると視線を向けたり、笑顔になったりすることが増えてきた。 ・友達から顔を近づけられると表情を変化させることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と関わり遊びをする中で、表情や発声で感情を伝えることができる。＜3-（1）＞ 	3・4-観察
B 5年（*）	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら特定の友達に背這いで近づいたり、顔に触れたりして関わろうとすることができるが一方的な関わりになることが多い。 ・表情や指さしで教師に要求を伝えたり、教師の問いに対して挙手することで選択したりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わり遊びの中で、自ら友達に手を伸ばし、やさしく触れて関わるができる。＜3-（2）＞ ・指さしたり挙手したりすることで活動したい道具を2つの中から選択することができる。＜6-（2）＞ 	3・4-観察
C 5年（*）	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら特定の友達に近づくことが増えているが、友達の傍で一人遊びをしていることが多い。 ・関わりが深い教師に対しては、様々な場面で発声と指さし「ちょうだい」のジェスチャーで要求を伝える場面が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の歌に合わせて友達に手を伸ばし、「ちょよちょよ」をして関わり遊びをすることができる。＜3-（1）＞ ・活動を交代してほしい際に、教師の言葉かけを受けて友達に「ちょうだい」のジェスチャーをすることができる。＜6-（2）＞ 	3・4-観察
D 5年（*）	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との関わりの中で、視線を合わせて笑顔になったり、怒ったりして気持ちを表現する場面が増えている。 ・音楽を聴くことと絵本を見ることに関しては、いざり這いで教師に近づき手を伸ばすことで要求を伝えようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わり遊びの中で教師と視線を合わせて感情を表現したり、タッチすることで「もう一回やって」の意思を伝えたりすることができる。＜6-（1）＞ 	3・4-観察

<p>E 5年(*)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ずりばいで友達に近づき、顔を寄せたり手で触れたりして好意を示すことがあるが一方的な関わりになることが多い。 ・特定の場面において、教師の顔と物に交互に視線を向け、発声することで要求を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に手を支持されて関わり遊びをする中で、友達に視線を向けることができる。＜3-（1）＞ ・2つの道具の中から活動したい道具にずりばいで近づき、選択したものを教師に視線を向けて発声することで伝えることができる。＜6-（1）＞ 	<p>3・4-観察</p>
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

3 展開

形態時間(分)	主な学習活動・内容	指導の手立て(各Tの役割等)※口は評価
<p>全 (5)</p>	<p>1 自分の席に座る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EとCが自ら椅子まで移動することができるように、椅子を指さしながら「席につこうね」と言葉かけする。＜2-（2）＞ ・Eが自ら自分の椅子に移動し、椅子に座ることを発声で要求するまで待つようにする。＜2-（2）＞ ・A, B, Dには「勉強を始めるよ」と言葉かけしながら席につくことができるよう介助する。＜2-（1）＞
<p>全 (2)</p>	<p>2 本時の学習内容を確認する。 (1) 始めのあいさつをする。 (2) 本時の活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を担当する児童が全体の前に出て挨拶を行うことができるように座席を移動させる。＜2-（2）＞ ・参観者の前で今日の授業には参観者がいることをBとDに説明することで、落ち着いて活動に取り組むことができるようにする。＜2-（2）＞ ・活動内容をイメージしやすくするために、前時に撮影した動画や写真を提示する。
<p>グ (13)</p>	<p>3 関わり遊び(一本橋こちょこちょ)をする。 (1) 教師と関わり遊びをする。 (2) 友達と関わり遊びをする。 ・横になって活動する。 (A, B) ・立位や座位で活動する。 (D, E, C)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と視線を合わせて、歌うスピードや間を個別に調整しながら関わり遊びを行うようにする。＜3-（1）＞ ・DやEが発声や視線で「もう一回やりたい」という要求が見られた場合には、応じるようにする。＜6-（1）＞ ・児童同士がお互いの距離を近づけ、表情を見やすく、両手を使って活動しやすいような体勢にする。＜5-（1）＞ ・Cには「〇〇さんにこちょこちょやるよ」と言葉かけすることで、教師の歌に合わせて自ら友達に手を伸ばして関わり遊びをすることができるようにする。＜6-（2）＞ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>教師と関わり遊びをする中で、教師と視線を合わせたり感情を表現したりすることができたか。(観察)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>友達に視線を向けたり、手を伸ばしたり、こちょこちょをしたりして関わり遊びをすることができたか。(観察)</p> </div>

<p>全 (20)</p>	<p>4 友達と一緒に身体を動かす。 ・順番に活動を行う。</p> <p>【予測される児童の反応と活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早くやりたい」と発声で要求する。(E) ・布ハンモックと一緒に乗る。(C, E) ・布ハンモックに乗っている友達の顔を覗き込む, 手を伸ばす。(B, C, E, D) ・友達が乗ったキャスターボードを引っ張る。(C, B) ・友達が楽しむ声や様子を見て視線を向ける。(A, D) ・「まだ終わりにしたくない」と発声で伝える。(B) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布ハンモックを揺らしながら他の児童に近づけることで, お互いに友達の表情を確認することができるようにする。<3-(1)> ・お互いの顔を見ながら布ハンモックと一緒に乗ることで, 活動の楽しさを共有することができるようにする。<3-(1)> ・児童が乗ったキャスターボードをCやBがひっぱることで友達と一緒に活動することができるようにする。<3-(1)> ・Cに「〇〇さんにちょうだいするんだよ」と言葉かけすることで友達に対して「ちょうだい」のジェスチャーをして活動の交代を要求することができるようにする。<6-(2)> ・Eが自らずりばいで移動し, 発声で要求することができるように教師は見守る。<6-(1)> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 自ら移動したり, 指さしをしたりすることで活動したい道具を選択し, 教師に伝えることができたか。(観察) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 活動を交代してほしい時に, 教師の言葉かけを受けて友達に対して「ちょうだい」のジェスチャーをすることができたか。(観察) </div>
<p>全 (5)</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 自分の席に着く。</p> <p>(2) 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「終わり」のジェスチャーをしながら言葉かけし, 学習の始めの隊形に戻ることで, 児童が活動の終わりに気が付くことができるようにする。<2-(2)> ・挨拶を担当する児童が全体の前に出て挨拶を行うことができるように座席を移動させる。<2-(2)> ・教師の言葉に続けて発声したり, 教師の手にタッチしたりして終わりのあいさつができるようにする。<2-(1)>
<p>【板書計画】</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 2px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px; text-align: center;"> <p>iPad</p> </div> <div style="font-size: 2em;">{</div> <div style="padding: 10px;"> <p>前時までを振り返ること, 本時の予定のイメージをもつこと, 自分たちの活動の様子を自ら確認することなどをiPadで動画や写真を提示し, 支援を行う。</p> </div> <div style="font-size: 2em;">}</div> </div>		